

第26回日本検査血液学会学術集会

ランチョンセミナー4

日時：2025年7月26日(土) 12:05～12:55

会場：第4会場（国立京都国際会館 1F Room C-1）

自動血球計数装置の“いま”と“これから”を読み解く ～白血球5分類の観点から～

自動血球計数装置は、その分析能力および情報処理技術の進歩により迅速な測定が可能となり日常診療に不可欠な装置として医療に大きく貢献している。その技術進歩は著しく、各装置メーカーの弛まぬ努力により測定法の開発や改良により精度向上や様々新規項目の同時測定が可能となりその進化は続いている。一方で、各装置の測定原理が異なること、また、保存可能な認証標準物質が存在しないことから標準化が非常に難しい。それらのことから血液検査分野では、各メーカーで国際調和プロトコル（標準法）を用いて新鮮血液を値付けし装置の校正が実施されている。国際調和プロトコルは臨床・検査標準協会（Clinical & Laboratory Standards Institute : CLSI）をはじめとする中立的専門機関から提供されており、必要に応じて更新されて国際調和プロトコル自体も改善・改良が行われている。例えば、白血球5分類の参照法である2007年に発刊されたCLSI H20-A2は、現在改訂作業中で最新かつ最良の方法が記載されることが期待されている。日本検査血液学会においても、白血球5分類参照法を従来の「鏡検法」から「FCM法」に変更することがリリースされ、標準化が更に進むことが望まれている。本講演では、白血球5分類を中心にイメージサイトメトリーの検討内容や自動血球計数装置の“いま”を紹介し、“これから”進むべき方向について皆さんと討論したい。

座長

慶應義塾大学

医学部 臨床検査医学 教授

松下 弘道 先生

演者

関西医療大学

保健医療学部 臨床検査科 教授

竹田 知広 先生

ランチョンセミナーは整理券制です。

詳細は学術集会ホームページに掲載される情報をご確認ください。

ホームページ <https://square.umin.ac.jp/jslh26/>

共催：第26回日本検査血液学会学術集会 / 株式会社堀場製作所